

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2010 年 10 月 3 日

派遣者氏名（専門分野）	■■■■■（演劇学）
-------------	------------

下記のとおり報告します。
記

研究テーマ	ロベール・ルパージュ研究
-------	--------------

派遣期間

2010年 8 月 27 日 ～ 2010 年 9 月 9 日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	カナダ	ケベック・シティ	劇団エクス・マキナ	ミシュリン・ボーリュウ
	カナダ	ビクトリア	ビクトリア大学	コーディ・ポールトン教授
	カナダ	バンクーバー	ブリティッシュ・コロンビア大学	大学図書館

派遣先で実施した研究内容

ケベック・シティ滞在中は、ロベール・ルパージュが芸術監督を務めるカンパニーであるエクス・マキナのアーカイブでリサーチを行った。アーカイブでは、ルパージュ作品の劇評、上演舞台写真、また作品の記録映像などを見せてもらった。それらの多くはそのオフィスでのみ見ることのできる貴重なものである。また、制作者にインタビューも試み、仕事内容だけでなく、新作についての話も聞くことができ、作品の制作背景に触れることができた。

また、ルパージュ演出のシルク・ドゥ・ソレイユ作品『トーテム』と、屋外の穀物倉庫に映写される『イマージュ・ミル』という映像作品も観ることができた。さらにルパージュ作品だけではなく、高速道路の下で行われたシルク・ドゥ・ソレイユの『レ・シュマン・アンヴィズィーブル』も観劇した。作品の素晴らしさだけでなく、『イマージュ・ミル』と『レ・シュマン・アンヴィズィーブル』はともに無料で、優れた芸術作品がケベコワ（ケベック人）にとって身近なものであることを実感する機会となった。

バンクーバーではブリティッシュ・コロンビア大学の図書館で図書及び雑誌からの資料収集を行い、またキャンパス内にある人類学博物館にも行った。博物館にはトーテム・ポールを初め、数々の先住民文化が展示されており、カナダ文化をさらに理解する上で必要な情報を得ることができた。

また、バンクーバーで唯一のフランコフォン劇団であるテアトロ・ラ・セズィエムの芸術監督にインタビューを行った。この劇団はルパージュがバンクーバーで公演する際にプロモーションを行っていることで知られている。インタビューでは、ルパージュ作品をプロモートするに至った経緯や、ルパージュ作品の魅力、そしてそれらの作品に対する見解を聞くことができた。さらにルパージュ作品だけでなく、テアトロ・ラ・セズィエムの方針や劇団の活動内容、さらにカナダ演劇全体における特徴などについても聞くことができ、意義深い経験となった。

ビクトリアではビクトリア大学アジア太平洋学部のコーディ・ポールトン教授に会い、日本演劇及びカナダ演劇に関して興味深い見解を聞くことができた。さらに、日本語と英語の論文の書き方における違いや、博士課程の学生としてどうあるべきかについても助言を与えてくれた。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

大学教授とのディスカッション、ロベール・ルパージュ作品に関する資料収集及び制作者などへのインタビューという当初の目的は達成できた。制作過程や上演映像や劇評など今後の研究に役立つ資料に触れることができたのは最大の収穫であった。また、インタビューを通して、ルパージュ作品だけでなく、テアトロ・ラ・セズィエムの作品を含む他のカナダ演劇作品についても話を聞くことができ、非常に有意義であった。また、フランス語圏であるケベック州及び英語圏であるブリティッシュ・コロンビア州での滞在を通して、カナダの公用語が英仏二カ国語であることを実感した。また、バンクーバーではアジア系移民を多く受け入れており、カナダが英仏だけでなく、多文化主義国家であることも改めて感じた。

派遣後の研究発表の予定

派遣中に得た知識を生かし、演劇学会の紀要に『ドラゴンズ・トリロジー』に関する論文を投稿する予定である。また、2011年8月に大阪大学で行われる国際演劇学会 IFTR 年次大会でも口頭発表を行いたい。